

## 令和3年度第1回 海岸工学幹事会議事録

開催日時：令和3年9月28日（火）14:00～17:25

開催場所：ZOOM 会議

出席者：佐々木委員長，森副委員長，北野幹事長，

川崎，内山，荒木，北野，遠藤（各小委員長），鈴木，安田（各副小委員長），加藤，桐，猿渡（渡部代理），瀬戸口，高川，田島，坪野，西畑，原田，山城，李，渡辺（委員），嶋原（2022年度海岸工学講演会実行委員）、下園（2022年度水工学夏期研修会幹事）、山中（2021年度水工学夏期研修会幹事）、小林（オブザーバー）

議事録：遠藤

資料：

- ・ 令和3年度第1回海岸工学幹事会議事次第（資料1）
- ・ PowerPoint 資料（資料2）

### ■前回議事録の確認（WEB 公開済）

- ・ 前回幹事会の議事録を確認した。

### ■海岸工学論文集第68巻最終報告と発刊状況について（川崎，鈴木，北野）

- ・ 下記の通り第68巻の報告があった
  - 第1段審査 登録論文数：258編，通過論文数：230編
  - 第2段審査 通過論文数：190編（不採択：2編，辞退0編）
  - 第2段審査以降 通過論文数：187編（不採択：2編，辞退：1編）
  - ※海岸工学講演会での発表数：230編（本論文あり：187編，要旨のみ：43編）
- ・ 今年度から通常号と同様，Corresponding Author を記載することになったが，氏名記述に関して（特に英語論文において）著者名のばらつきが大きかった。
- ・ 次年度の申し込みの際には，論文題目変更についてのルールを変更する（主査が題目の変更の認めた場合は，cec に連絡したうえで題目変更を認める。）
- ・ 予算上問題がなければ，論文投稿料は昨年度と同様とすることとした。

### ■海岸工学論文賞および論文奨励賞の候補について（北野）

- ・ 審査方法の確認の後，審査結果の説明があり，論文賞：3編，奨励賞：3編の候補が決まった。
- ・ 海岸工学委員会でメール審議による承認を経て受賞を決定し，講演会プログラムの題目に論文賞，奨励賞を記載する。

### ■第68回海岸工学講演会（オンライン）の準備状況について（北野，小林，荒木）

実行メンバー：広報・出版小委員会（講演会），中部の実行委員会（企画セッション），幹事長（調整役）

日 程：2021年11月10日（水）～12日（金）

会 場：オンライン（ネット）

- ・ コロナウイルス感染拡大防止の観点から，第68回海岸工学講演会はオンライン（ネット）のみに限定して開催。（9月6日時点で講演者に対して講演会のオンライン開催の方針について周知済）
- ・ 講演会と企画セッションは別々に Web 登録をする必要がある。

- ・企画セッションの「波動と地盤の相互作用について考える」と「海岸の将来ビジョンとその実現に向けた取り組み」を企画。

■第 69 回海岸工学講演会について（嶋原）

実行委員会：栗山（海上・港湾・航空技術研究所，実行委員長），鈴木（横浜国大），八木・嶋原（防衛大），田島・下園（東大），福谷（関東学院大），有川（中央大），高川（港空研），今井（JAMSTEC）

後援：横須賀市（予定），国土交通省関東地方整備局（予定）

日程：2022 年 11 月 8（火），9（水），10（木），11（金）

※1 日目：オンライン（11/8），2 日目以降：ハイブリッド（11/9-11）

会場：横須賀市 ヴェルクよこすか（横須賀市立勤労福祉会館）

- ・収容人数の少ない会場はオンライン専用の会場を予備で設けることにより対応
- ・会場とオンラインの双方向のやり取りが可能とする
- ・ネットワークと運営は業者に依頼する方向で検討を進めている。
- ・会場が限られているため，開催期間中の小委員会は極力，オンラインでの開催をお願いしたい（海岸工学委員会，また 20 人程度の少人数の委員会は現地開催可能）
- ・第 4 会場が市のワクチン接種会場となり使用不可になる可能性がある（22 年 4 月に判明）。その場合，第 4 会場はオンライン専用にする，または別施設 1 部屋を確保するなど対応を検討する必要がある。
- ・発表形態として，オンラインのみ：60 件，ハイブリット：200 件程度が実施可能。後援者に対して，発表形態の希望調査の方法や調査の時期について検討する必要がある。

■第 56 回水工学に関する夏期研修会（B コース）開催報告（山中）

日程：2021 年 8 月 30 日，31 日

会場：オンライン開催（Zoom ウェビナー）

受講者申込数：204 名（A コース 105 名（一般 81、学生 24），B コース 99 名（一般 80、学生 19））

担当者：山中（徳島大）、荒木（大阪大）、アルバイト 1 名

出版物：講義集（現在販売中）

新しい試み：オンライン開催，講義資料の pdf 公開

- ・参加者は例年より多かった。アンケート結果について説明があり講義内容は概ね好評だったが，以下のような意見があった。
  - 講義集を電子データでほしい。
  - 参加費を現状の半額以下にしてほしい。
  - Web 開催（ハイブリット）について継続してほしいという意見と，オンラインでは一方的な聴講になるため 2 日間は難しいとの意見があった。
  - 今後取り上げてほしいテーマとして，砂浜の海岸保全，気候変動の影響を踏まえた防災・減災対策，粒子法，流域治水・養浜などが挙げられた。

■第 57 回水工学に関する夏期研修会（B コース）について（下園）

日時：2022 年 9 月 5 日（月）6 日（火）

会場：東京大学本郷キャンパス

（コロナウィルス感染状況によってはオンライン開催の可能性有）

担当者：A コース小田僚子先生（千葉工大），B コース下園委員（東大）

定員：A、B コースともに 150 名（対面実施の場合）

構成：初日に AB コース共通講義 2 コマ設定。その後、AB コース個別に 6 コマずつ、海岸工学側の講師案（敬称略）

AB コース共通講義：今後の海岸工学の課題について（仮）：加藤史訓（国総研）

B コース講義：テーマ「波・流れと地盤の相互作用（仮）」

- ・ 第 56 回のアンケート結果を基に運営方法の詳細について検討することとした。

#### ■ Coastal Engineering Journal について（内山）

- ・ インパクトファクターが 2.032（2019）から 3.216（2020）になった。
- ・ Editorial Board と CEJ 小委員会のメンバーを拡充（Editors：2 名，Editorial board：6 名が新規で追加）。
- ・ CEJ2021, Vol.63, No.2：5 編，CEJ2021, Vol.63, No.3 Bule Carbon SI (Planned)：16 編を発刊予定。
- ・ 2022 年 CEJ Special Issue として，Coastal Hazards and Risks due to Tropical Cyclones（Guest Editors: Yoshimitsu Tajima and Andrew B. Kennedy）が査読中（9 編査読，5 編 Reject，2 編アクセプト）。
- ・ 2023 年 CEJ Special Issue として，Coastal Disasters in Asia: Forecasting, Uncovering, Recovering, and Mitigation（Guest Editors: Hiroshi Takagi and Mohammad Heidarzadeh）を募集中。
- ・ 国別投稿数について報告があり，欧州・南米・アフリカからの投稿が増えてきているが，日本からの投稿が比較的少ない。
- ・ Coastal Engineering Journal Award 2020，CEJ Citation Award 2020，JAMSTEC 中西賞の受賞者（6 月の委員会で承認済，CEJ 公式 HP で発表済み）の報告があり，盾（各賞 2 台）と賞状（人数分）の準備と発送を進めることとした。
- ・ CEJ の印税の使途について，優れた業績と経験を有する方の招待論文（仮称）を以下の支援（原資は CEJ 印税）と合わせて行うこととした。
  - APC（論文掲載料）を負担し，オープンアクセス化する
  - 必要な方（日本人）に英文校閲費を支出（技術的に難しければ，相当の謝金を支出）
  - 土木学会会員以外には原稿料（形式は謝金？）の支出を可能とする

#### ■ 常設小委員会報告（広報・出版，沿岸域連携）（荒木，遠藤）

- ・ 広報・出版小委員会（荒木）
  - 体制について 2 名（井手先生，比嘉先生）の新規加入の報告があった。
  - プログラム・DVD に関して，昨年度と今年度の講演会がオンライン開催により企業展示の中止に伴い業界案内の件数が減少している。
  - 今後，オンライン開催またはハイブリッド開催が続くことが予想され，本小委員会が現地実行委員会とともにオンライン開催をサポートしていくこと想定して，名称を「広報・出版・web 開催小委員会」へ改称する旨の要望があり，承認された。
  - 学講演会プログラムに論文賞・論文奨励賞，CEJ からの招待論文，海岸工学委員会からのお知らせ（各小委員会の紹介文）を掲載する。
- ・ 沿岸域研究連携推進小委員会
  - 新副小委員長の就任について報告があった。

#### ■ 研究小委員会の発足について（北野，安田）

- ・ 研究小委員会と研究会の設置の考え方について最近の経緯を確認し，これまで明文化され

ていなかった要件や分類等について議論を行った。

・海岸工学委員会の研究小委員会および研究会に関する覚書」について提示があり、これに加えて必要となる文書も整理して、委員会で承認を得ることとした。

- 小委員会を常設小委員会と研究小委員（2年間の任期付き）と分類して内規に記載することとし、以下の点を踏まえて内規の改定をする。
- 広報委員会の名称の修正。
- 沿岸域研究連携推進小委員会を経緯と現状に合わせて常設の小委員会とする。
- その他の記載の変更が必要な場合は、この機会に内規細則の変更を検討する。

・上記の議論の後に、下記の研究小委員会の設置について提案があり、小委員会を経て承認することとした。

- 「沿岸まちづくりにおける経済学的手法研究小委員会」  
海岸工学委員会担当者：小委員長：安田（関大）、幹事：福谷（関東学院大）

#### ■土木学会論文集「通常号・特集号」の論文投稿・査読システム（川崎）

- ・土木学会論文集の構成が変更することになり、2023年1月から土木学会論文集の通常号は毎月発刊（No.1からNo.12）され、特別号はNo.13以降に割り当てられる（海岸工学委員会はNo.17.の予定。）
- ・査読システムの変更について、海洋開発委員会、水工学委員会と連携しながら検討を進めていくこととした。

#### ■水理公式集例題集小委員会：水理公式集例題集の改訂（山城）

- ・水工学委員会水理公式集例題集小委員会において水理公式集例題集の改定を進めており、「海岸・港湾」の例題執筆担当者を下記の通り選定し例題集の作成を進める。
  - 波浪（波の基礎を含む）：平山（港湾空港技術研究）
  - 波の変形：山城（九州大学）
  - 長周期の波（沿岸の流れを含む）：高川（港湾空港技術研究所）
  - 漂砂と海岸過程：小野（(株) エコー）
  - 構造物への波の作用：久保田（(株) 不動テトラ）
  - 海岸環境と流れ：入江（大阪大学）

#### ■その他

- ・令和3年度の委員会予算について報告があり、用途について意見交換をした（北野）  
全体予算：7,169,875円（内訳 調査研究費：934,000円，調査研究拡充支援金：2,541,000円，2020年度繰越金：2,493,000円，CEJの印税：1,201,875円）
- ・「津波に対する海岸保全施設整備計画のための技術ガイドライン」セミナー（10月29日@オンライン）の開催について案内があった（北野）
- ・3rd-JSCE-CCES-JOINT SYMPOSIUM（10月20-21日@オンライン）の開催について案内があった。（渡部，北野）
- ・海岸工学講演会・特集号の今後に関する戦略WGより、第4回戦略WGの議事内容（高校生発表とアンケート自由記述の内容）について報告があった（佐々木・原田）
- ・世界銀行「西アフリカ沿岸（WACA）地域管理プログラム」委員として田島委員を推薦。

以上